

## 合併十周年を祝って

高松市が平成17年9月に先行して塩江町と、そして平成18年1月に牟礼町、庵治町、香川町、香南町、国分寺町と合併をして、ちょうど10年が経過しました。約33万人だった人口が約42万人と1.3倍に増加し、面積が約195平方キロメートルから約375平方キロメートルと1.9倍に広がりました。結果、現在人口で全国790市中、上位38番目（注）に位置する中核都市として発展を続けてきています。高松市の合併は、「平成の大合併」という国策の流れの中で行われましたが、当然そうすんなりと成立した訳ではありません。合併前後には、それぞれの町で厳しい議論が展開され、住民投票を行ったところもありました。まさに難産の末の合併であったと言っても過言ではありません。

合併により、旧町が有していた豊富な地域資源を新高松市が引き継ぐことになりました。塩江町には豊かな森林と香川県随一の塩江温泉郷があります。牟礼町には世界的彫刻家イサムノグチの庭園美術館があり、庵治町とともに石材業、石材加工業が盛んです。また、庵治町は県下有数の漁港を有し、大ヒット映画「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケ地としても有名です。香川町は都市近郊農業が盛んで、農村歌舞伎が残っています。香南町には高松空港があり、工場立地も盛んです。国分寺町には四国唯一の特別史跡「讃岐国分寺跡」があり、鬼無町と並ぶ盆栽の一大産地です。その他多くの合併町の地域資源が加わり、人口や面積が大きくなった比率以上に、新高松市はより魅力、輝きを増したと言っていると思います。また、合併に相前後して、旧市内においてサンポート高松や丸亀町商店街の再開発事業、太田第二土地区画整理事業などが順次竣工をし、中心部の拠点性や新市中央部の都市基盤が強化されたことは全市域における一体感を醸成する上でも幸いでした。

来る2月7日（日）には、合併十周年の記念式典を開催します。まだまだ残された課題もあり、合併の功罪も議論の余地はあります。これからもしっかりと対応して行く必要がありますが、まずは、合併十周年を無事に迎えられたことに感謝し、皆さんでお祝いしたいと思います。

（注）総務省発表資料による